

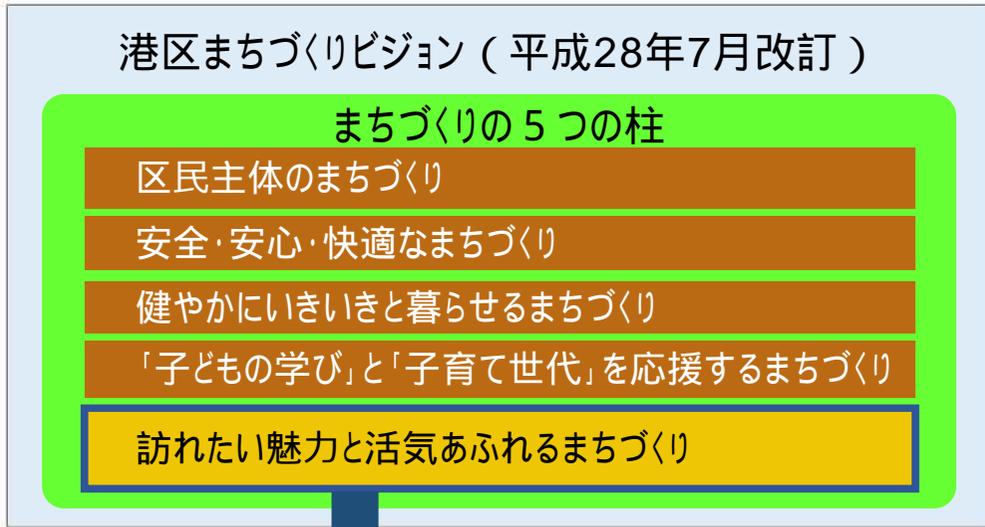
港区エリア別活性化プランの策定

- ・活性化プランの作成について
- ・行政資産（もと市岡商業跡地等）の活用について

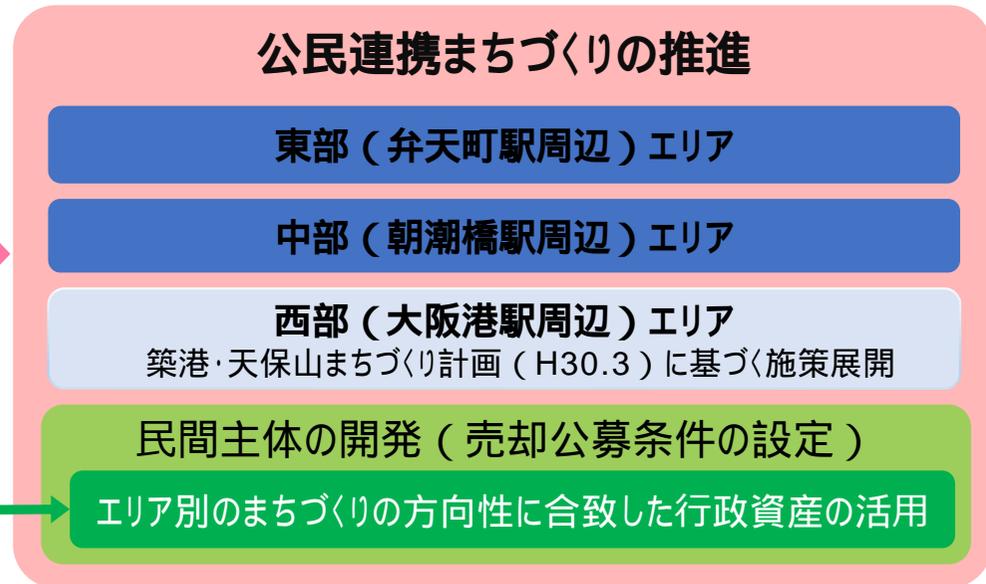
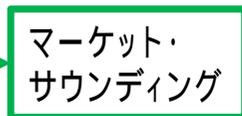
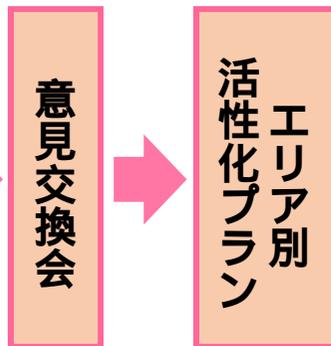
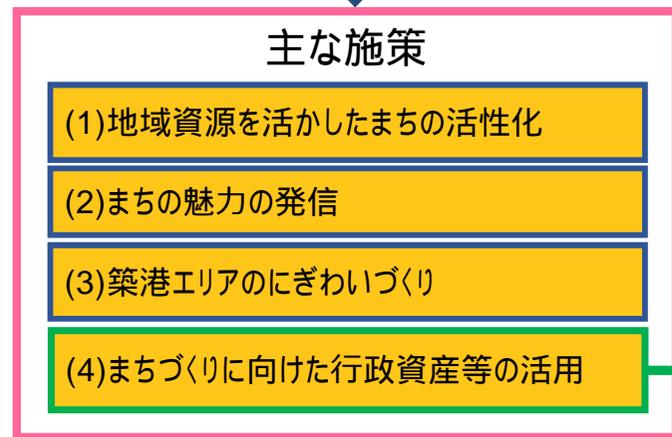
プラン策定の目的・位置づけ

- ・港区まちづくりビジョンに掲げる「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」を進めるにあたり、港区の歴史、現状課題、法令や上位計画等との整合性を図りながら、エリア別のまちづくりの望ましい方向性を定めることを目的として、「港区エリア別活性化プラン」を策定する。
- ・検討エリアは、弁天町駅を中心とした東部エリア及び朝潮橋駅を中心とした中部エリアとする。

エリア別活性化プランの位置づけ



港区まちづくりビジョンに掲げる「いちばん住みたいまち 住んで誇りに思えるまち 港区」の実現にむけて、エリア別活性化プランを策定し、公民連携によるまちづくりを進めるとともに、エリアの活性化に資する行政資産等の活用を促進する。



東部（弁天町駅周辺）エリアの概要



エリアの現状分析（イメージ）

- ・弁天町駅周辺は、交通利便性が高く、都市機能が集積しており、波除地域は人口が増加傾向である。
- ・弁天、磯路地域は、高齢化率が比較的高く、若年層や子育て層の増加に資するまちづくりが望まれる。
- ・復興区画整理未実施エリアや低層住居エリアは、津波発生時の高所避難機能のより一層の充実が望ましい。

今後、エリアの現状分析とまちづくりの方向性を検討します。

中部（朝潮橋駅周辺）エリアの概要



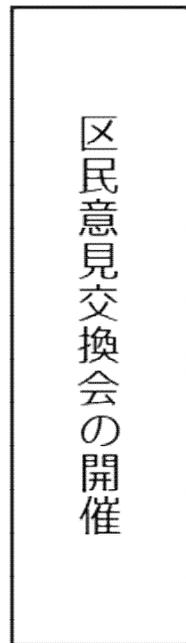
エリアの現状分析（イメージ）

- ・都市基幹公園である八幡屋公園は、区民の憩いの場となっている。
- ・みなと通以北は、低層住宅エリアを形成しており、津波発生時の高所避難機能の一層の充実が望ましい。
- ・みなと通以南は、市営住宅等の集合住宅の団地群が立地し、高齢化率が40%弱と非常に高い状況であり、若年層や子育て層の増加に資するまちづくりが望まれる。

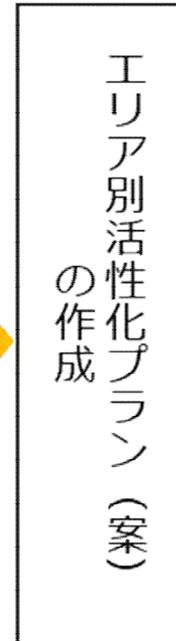
今後、エリアの現状分析とまちづくりの方向性を検討します。

エリア別活性化プラン策定の流れ（案）

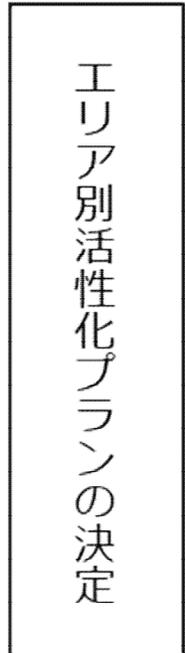
8月下旬



12月頃

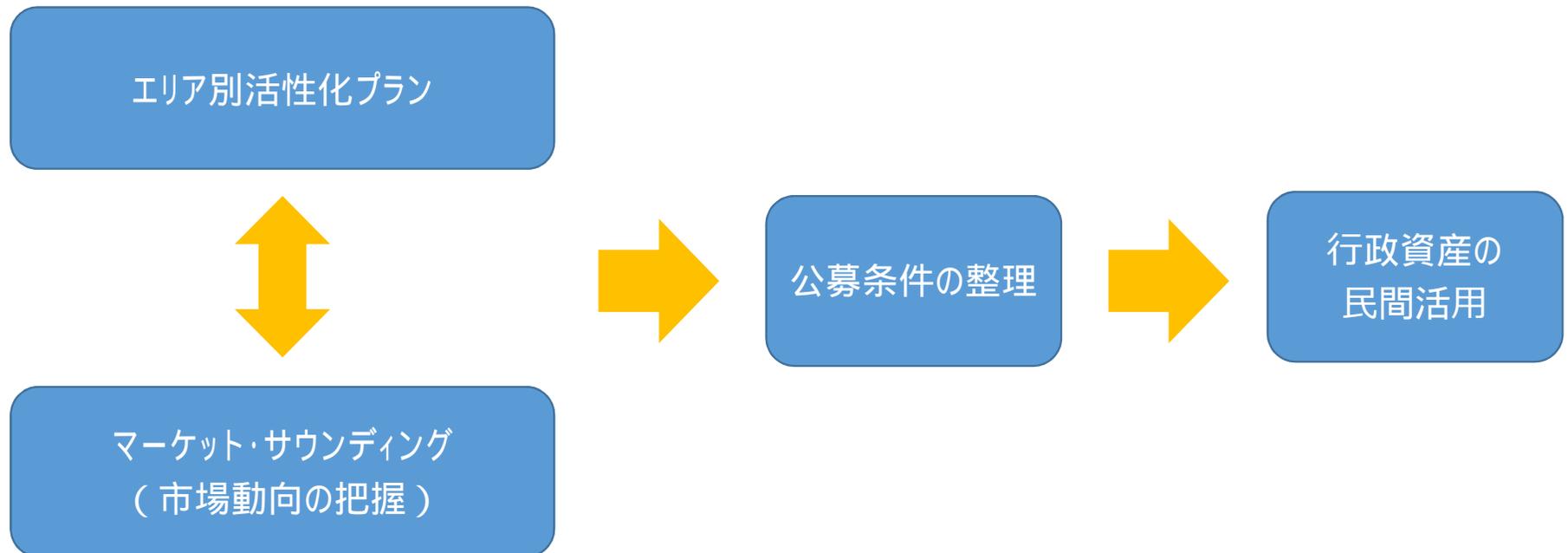


3月



行政資産の民間活用の推進（もと市岡商業高校跡地）

行政資産の民間活用（売却）を進めるにあたり、エリア別活性化プランやマーケット・サウンディングの結果を踏まえ、公募条件を整理



行政資産の民間活用（もと市岡商業高校跡地）



敷地面積：19,406.68m²

用途地域：第一種住居地域

建ぺい率：80% 容積率：300%

準防火地域

バリアフリー重点整備地区（弁天町地区）

複合型開発の可能性を追求

- 市場性・収益性の確保できる事業
- まちづくりの観点から導入が望まれる機能

弁天町駅周辺エリアのまちづくりの方向性や
マーケット・サウンディングの結果を踏まえて設定